

令和7年（2025年）12月4日

保護者の皆様へ

吹田市立古江台小学校
校長 坪野 正樹

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個別の結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

全体の正答率は、全国値を上回っていた。

●国語《各領域における成果と課題》

言語の特徴や使い方に関する事項・・・全国値を上回る

・「漢字を文の中で正しく使う」ことは、できている。

情報の扱い方に関する事項・・・全国値を上回る

・「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」ことは、やや課題がある。

我が国の言語文化に関する事項・・・全国値を上回る

・「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く」ことは、できている。

話すこと・聞くこと・・・全国値を上回る

・「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える」ことは、できている。

・「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」ことは、できている。

・「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する」ことは、課題がある。

書くこと・・・全国値を上回る

- ・「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことは、とてもできている。
- ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで図表を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える」ことは、やや課題がある。
- ・「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことは、やや課題がある。

読むこと・・・全国値を上回る

- ・「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容のだいたいをとらえる」ことは、できている。
- ・「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する」ことは、課題がある。
- ・「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける」ことは、大きな課題がある。

●国語科における成果と今後の改善点について

全体的には、ほとんどの設問において全国値を上回り、良い結果でした。

「話すこと・聞くこと」においては、低学年では身近なことや経験したことから話題を選んで伝え合う活動、中学年では、日常生活の中から集めた材料を比較したり分類したりして必要な事柄を選んで伝え合う活動、高学年では、聞き手が求めていることに応じて集めた材料を整理して伝え合う活動を増やしていきます。

「書くこと」においては、低学年では、日記や手紙などで思ったことや伝えたいことを書いたり、時間や順序を表す語を用いて書いたりする学習、中学年では、伝えなければならない情報をもれなく書いたり、「なぜなら～」「その理由は～」と根拠を示して書いたりする学習、高学年では、筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えながら書く学習が必要だと考えます。

「読むこと」においては、低学年では、説明文や科学的読み物を読んで分かったことや思ったことを話したり説明したりする、中学年では、低学年の活動に加えて事例や本文の一部を引用して自分の考えを説明する、高学年では、同じテーマについて異なる書き手による本や文章などを、比較・分類・関係付けるなどしてまとめたり発表したりする活動をしていきたいと考えます。

●算数《概要》

全体の正答率は、全国値を上回っていた。

●算数《各領域における成果と課題》

数と計算・・・全国値を上回る

- ・「数量の関係を、□を用いた式に表す」ことや、「除数が小数である場合の除法の計算をする」ことは、できている。
- ・「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」ことは、課題がある。

図形・・・全国値を上回る

- ・「直方体の見取り図について理解し、かく」ことは、できている。

・「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す」ことは、課題がある。

変化と関係・・・全国値を上回る

・「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」ことは、概ねできている。
・「速さの意味について理解する」ことや、「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」ことは、課題がある。

データの活用・・・全国値を上回る

・「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る」ことや、「簡単な二次元表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する」ことは、できている。
・「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件にあてはまることを言葉と数を用いて記述する」ことや、「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する」ことは、課題がある。

●算数科における成果と今後の改善点について

全体的には、全ての設問において全国値を上回り、良い結果でした。

「数と計算」においては、分数の成り立ちや単位分数をもとにして考えられるような活動に取り組みます。

「図形」においては、中学年では、いろいろな四角形の性質について整理したり、図形を敷き詰めたりするなどの操作的な活動を取り入れます。高学年では、図形の面積を求めるために必要な測定を行ったり、面積の公式を基にした多角形の見方・考え方を養ったりする活動を重視していきます。

「変化と関係」においては、割合を用いて比べることの特徴や良さを考え、シュート率や勝率など日常生活の中で割合を用いて比べる活動を取り入れます。

「データの活用」においては、グラフの性質を正しく理解して目的に応じてグラフや表を選択して表したり、分かりやすく表そうとする工夫を生かしながらグラフを作成したりする活動に取り組んでいきます。

●理科《概要》

全体の正答率は、全国値を上回っていた。

●理科《各領域における成果と課題》

エネルギー・・・全国値を上回る

・「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身についている」ことは、概ねできている。
・「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身についている」ことは、課題がある。

粒子・・・全国値を上回る

・「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している」については、概ねできている。

生命・・・全国値をやや上回る

・「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についている」ことは、よくできている。

- ・「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する」ことは、課題がある。

地球・・・全国値を上回る

- ・水のしみ込み方の違いについて、「土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現する」「【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して表現する」ことは、よくできている。

●理科における成果と今後の改善点について

どの領域においても、問題意識や見通しをもって観察・実験に取り組むことによって、事実に知識を得たり、基本的な技能を習得したりすることを目指していきます。

観察・実験などの結果について、具体的な数値を根拠に傾向を見出したり考察したりする活動を重視したいと考えます。また今後も、差異点や共通点を基に、新たな問題を見出したり、予想や仮説をたてたりする機会を設定したいと考えています。また、他者の考えを認め、多様な視点から自分の考えを見つめ直す振り返りの機会ももちたいと考えています。

自然に触れる体験活動を補う学習として、ICT 機器の積極的な活用も行っていきます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時間に寝る/起きる」といった生活習慣に係る質問については肯定的な回答が多い。
- ・「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」については、肯定的な回答がとて多く、否定的な回答が少ない。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」については、肯定的な回答が多い。
- ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」については、肯定的な回答が多い。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」については肯定的な回答が多い。
- ・「自分には、よいところがある」については肯定的な回答が多い。
- ・「将来の夢や目標を持っている」については肯定的な回答が多いが、大阪府および全国平均値よりも低い。

【教科・学習について】

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」については、肯定的な回答が多い。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする」については、肯定的な回答が多い。
- ・「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」については、肯定的な回答がとて多い。
- ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」については肯定的な意見が多い。
- ・「国語の授業の内容はよく分かりますか」については肯定的な回答がとて多い。
- ・「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」「小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしている」については、肯定的な回答が大阪府および全国平均値より

もかなり多い。

・理科についての質問で、「観察や実験をよく行っている」「自分で予想（仮説）を考えている」「どのようなことが分かったのか考えている」については、肯定的な回答がとても多い。

3. 今後の取組

本年度の全国学力・学習状況調査において、本校6年生児童は、全体として全国値を上回る結果でした。学力の定着とともに、学習に前向きに取り組もうとする姿勢が育ってきています。日々の学習に粘り強く取り組む児童の姿とともに、ご家庭における学習環境づくりの積み重ねが、この結果につながっているものと受け止めております。

本校では昨年度より、算数科を中心に「考えを互いに伝え合うことで、多様な見方、考え方ができる子どもの育成」という研究主題を柱とした授業研究を進めています。正解にたどり着くことだけでなく、「どのように考えたか」「なぜそう思ったのか」を言葉や図、ICT機器を活用して表現し、互いの考えに触れながら学びをつなげていくことを大切にしています。今後も、各教科において思考し、対話し、活用する学びを一層充実させてまいります。

また、生活習慣や人との関わりに関する調査結果からは、友達との関係や不安への向き合い方など、心の育ちに関して継続した支援が必要であることもみえてきました。日々の生活や学習、行事等を通して、自他のよさに気づき、違いを認め合い、困ったときに支え合える関係づくりを今後も大切にしていまいります。あわせて、いじめ予防の取組や人権教育、デジタル・シティズンシップ教育など、教育活動全体において、人との関わりを考える活動にも、引き続き全校で取り組んでいきます。

今回の結果は、学力の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。大切なのは、この結果を生かし、児童一人ひとりがこれからの時代をたくましく生きる力を育んでいくことです。そのために、学校と家庭、地域が同じ方向を向いて児童の育ちを支えていくことが何より重要であると考えています。今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。